

てつぞうきっしょうてんりゅうぞう
「鉄造吉祥天立像」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（彫刻） 昭和 62 年 1 月 27 日
- 所 在 地 千曲市大字上山田 2443 番地 普携寺
- 所 有 者 普携寺
- 概 要 立像（ちゅうてつ 鑄鉄、さいしき 彩色（はくらく 剥落））
寸法 像高 22.5 cm 頂～顎 4.8 cm 面幅 2.2 cm 面奥 2.8 cm
肩張 5.2 cm 肘張 7.4 cm 裾張 5.3 cm
- 時 代 鎌倉時代末から南北朝時代と推定。
- 公 開 寺室のため非公開

寺ではかんのんぞう 観音像と称していますが、たれかみ 垂髪を肩にたらし、三面、飾りてんかん 天冠を戴き、唐の貴婦人の着衣であることから、「かくぜんしょう 覺禪抄」に説くところのきっしょうてんぞう 吉祥天像です。

本像は、鑄鉄製で珍しいものです。吉祥天は、福德を司る女神として古くからうやま 敬われていたもので、しんごんみつきょう 真言密教成立後少なからず信仰されていました。ただし、本像は背及び膝下にかがみいた 鏡板挿込み突起があるので、みしょうたい 御正体＝かけぼとけ 懸佛の本地佛であったが、鏡板を失ったものと考えられます。しかももすそうら 裳裾裏及び足先が火を受けているので、火災により木製鏡板を焼失し、本尊のみ残存したのであろうと考えられます。

